



上空から見た高山城跡周辺（本城地区）

数々の戦いが行われてきました。

城といえば、きらびやかな天守閣をイメージしますが、中世の山城とは、山上に簡易な櫓だけの城郭、麓に下館（居館）を築いただけのもので。平時には麓に住み、敵が来襲すると山上の城に立て籠もるといった使い方が一般的だったようです。

そんな中世山城である高山城は、標高82メートルを最高所とする、およそ南北550メートル、東西1300メートル、約50ヘクタールの規模で、南に本城川、北に栗山川、西に高山川、東にシラス台地の急崖という天然の要害にありました。城内は本丸、二の丸、三の丸など空堀でいくつかの区画に分けられていて、西側に城の正門である大手門、南側に裏門の搦手（からめて）門があります。さらに防衛システムとしての土塁や切岸などは今もその原形をとどめ、往時の面影を偲ばせます。